

# 汚濁負荷量測定手法届出書 記載方法

様式第 10 (規則第 9 条の 2 関係)

## 汚濁負荷量測定手法届出書

①

〇〇〇〇年〇月〇日

横浜市 長

②

届出者 横浜市中区本町〇-〇-〇  
株式会社●●●● 横浜工場  
代表取締役 横浜 太郎  
郵便番号( 〇〇〇-〇〇〇〇 ) 電話番号( 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 )  
(氏名又は名称及び住所ならびに法人にあってはその代表者の氏名)

水質汚濁防止法第 14 条第 3 項の規定により、汚濁負荷量の測定手法について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	株式会社●●●● 横浜工場 ③	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	横浜市中区港町〇-〇 ④	※受理年月日	年 月 日
△汚濁負荷量の測定手法	別紙のとおり。	※備 考	

- 備考 1 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。  
2 ※印の欄には、記載しないこと。  
3 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A4 とすること。

①報告の提出日を記入します。(西暦でも和暦でも構いません。)  
(測定手法を開始変更等する日のあらかじめの提出です。)

②届出者に次の事項を記入します。  
・法人の住所・名称  
・代表者の役職・氏名(法人の場合、原則代表者となります。)  
・郵便番号・電話番号

③事業場の名称を記入します。(以前に届け出た事業場名称)

④事業場の所在地を記入します。(以前に届け出た事業場所在地)

※この届出書は、東京湾及びその流域に排水を 50 m<sup>3</sup>/日以上排出する水質総量規制が適用される事業者が対象です。

# 1 事業場概要 ①

事業場全体の排水の量	通常	10,000 m <sup>3</sup> /日	最大	20,000 m <sup>3</sup> /日
特定排水	通常	3,000 m <sup>3</sup> /日	最大	5,000 m <sup>3</sup> /日
非特定排水	通常	7,000 m <sup>3</sup> /日	最大	15,000 m <sup>3</sup> /日
排水系統及び測定場所に関する概要図	別図 1			
事業場平面図	別図 2 (用水、排水系統、特定排水の採取場所、(自動計測の場合は、計測器設置場所及び水量計測場所)を書き込むこと。)			

# 2 汚濁負荷量測定方法概要 ②

採用する測定方法に○印を付けること。(複数選択可)

## (1) 化学的酸素要求量

採用	方法
<input checked="" type="radio"/>	水質自動計測器(記録式)
<input type="radio"/>	コンポジットサンプラー+指定計測法(JIS法)
<input type="radio"/>	指定計測法(JIS法)
<input type="radio"/>	簡易COD計

## (2) 窒素含有量

採用	方法
<input checked="" type="radio"/>	水質自動計測器(記録式)
<input type="radio"/>	コンポジットサンプラー+指定計測法(JIS法)
<input type="radio"/>	指定計測法(JIS法)

## (3) リン含有量

採用	方法
<input checked="" type="radio"/>	水質自動計測器(記録式)
<input type="radio"/>	コンポジットサンプラー+指定計測法(JIS法)
<input type="radio"/>	指定計測法(JIS法)

## (4) 排水量

採用	方法
<input checked="" type="radio"/>	流量計又は流速計(記録式)
<input type="radio"/>	積算体積法(記録式)
<input type="radio"/>	JIS法その他同程度の方法
<input type="radio"/>	用水量の計測による方法

## その他参考となるべき事項

担当部課及び担当者	安全環境部 環境課 担当者 横浜 三郎 電話( 000-000-0000 ) FAX( 000-000-0000 ) E-mail( 00_00@000.00.00 )	③
-----------	---	---

※ 汚濁負荷量算定の差し引き方式採用の有無(有・無) 計測方法についての特例対象の有無(有・無) 自動計測器台数(右表)	COD					TN	TP
	計	COD	TOC	TOD	UV		

備考 ※印の欄には記載しないこと。

①事業場から排出される排水の量を記入します。  
直近に届け出た水質汚濁防止法第5条第1項又は第7条の別紙5「排水水の排水系統別の汚染状態及び量」の排水水量となります。

②CODなど各測定項目に対し採用する測定方法に○を記入します。  
排水水の量が400m<sup>3</sup>/日以上の上業場は原則、自動計測器により計測してください。なお、自動計測器による測定が困難な場合は例外が認められていますので、次ページを参照してください。  
排水水の量が400m<sup>3</sup>/日未満の上業場はいずれの方法でも構いません。

③担当者の所属・氏名・電話番号・FAX番号・メールアドレスを記入します。

### 3 特定排水等の水質計測方法及び計測場所

計測場所 番号	計測方法 (計測器型式等)	計測頻度 (採水時刻)	工事着手予定年月日 工事完成予定年月日 使用開始年月日	備考 (換算式、分析機関等)
C1	COD: UV計 〇〇社製 COD-101	連続	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	$Y=5.5X+0.3$
N1	T-N: 全窒素全りん自動測定器 〇〇社製 TNTP-501	連続 (1回/時間)	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	
P1	T-P: 全窒素全りん自動測定器 〇〇社製 TNTP-501	連続 (1回/時間)	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	
C2	COD: COD計 〇〇社製 COD-n1	連続 (1回/時間)	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	$Y=1.1X$
N2	T-N: 全窒素全りん自動測定器 〇〇社製 TNTP-501	連続 (1回/時間)	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	
P2	T-P: 全窒素全りん自動測定器 〇〇社製 TNTP-501	連続 (1回/時間)	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	
①	②	③	④	⑤
排水量 400m <sup>3</sup> /日以上で告示別記1 (1)によらない場合、その根拠を記入 すること。		⑥		

注) 水質自動計測器を用いる場合は、下記の資料を添付すること。

☑ 測定計測器の仕様 (N、P計については性能基準も含む。)

☑ 計測器の管理方法の概要

(保守点検、校正、清掃、試薬交換、廃液処理及び純水器保守点検等)

☑ その他参考となるべき資料 (機器選定及び換算式の根拠等)

⑦

①自動計測器による計測場所又は採水場所の番号を記入します。  
任意の番号で、別図1及び別図2と整合させてください。

②COD・T-N・T-Pの各項目の測定方法を記入します。  
自動計測器の場合：メーカー名、型式  
指定計測法の場合：指定計測法 (JIS K0102 17)

③計測頻度を記入します。

自動計測器の場合：「連続」

計測器によっては、1回/時間のものもあります。

指定計測法の場合：「1回/30日 (8時、16時、24時)」

排水の量に応じて計測頻度が異なります。

50m<sup>3</sup>/日以上100m<sup>3</sup>/日未満：1回/30日

100m<sup>3</sup>/日以上200m<sup>3</sup>/日未満：1回/14日

200m<sup>3</sup>/日以上400m<sup>3</sup>/日未満：1回/7日

※上記の回数以上、測定してください。

また、1日当たり3回以上の測定になります。

④自動計測器を設置する工事着手予定年月日等を記入します。

⑤COD自動計測器・簡易COD計の場合、換算式を記入します。  
指定計測法の場合、「自社分析」や「計量証明事業所による委託分  
析」などと記入します。

⑥排水の量が400m<sup>3</sup>/日以上の場合、原則自動計測器による計測  
になりますが、困難な場合はその根拠を記入します。  
詳細な根拠は、各項目ごとの県告示を参照してください。

COD：環境庁告示20号化学的酸素要求量に係る汚濁負荷量の測定方法による神奈川県告示第163号環境庁告示第20号の知事が定める測定方法  
T-N：環境庁告示77号窒素含有量に係る汚濁負荷量の測定方法による神奈川県告示第484号環境庁告示第77号の知事が定める測定方法  
T-P：環境庁告示78号窒素含有量に係る汚濁負荷量の測定方法による神奈川県告示第485号環境庁告示第78号の知事が定める測定方法

⑦自動計測器を用いる場合、次の資料を添付してください。

添付する資料に☑を入れます。

・計測器の仕様書

・計測器の管理方法の概要 (保守点検等)

・その他資料 (機器選定の根拠や換算式の根拠等)

#### 4 特定排水等の量の計測方法及び計測場所

計測場所 番号	計測方法 (計測器型式等)	計測頻度 (計測時刻)	工事着手予定年月日 工事完成予定年月日	備考 (換算式、記録計の有無等)
Q1	全幅せき式流量計 ●●社製 LQ-▲▲	連続	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	Q=KBh <sup>3/2</sup> 記録計有
Q2	電磁流量計 ●●社製 LQ-〇〇	連続	〇〇〇年〇月〇日 〇〇〇年〇月〇日	記録計有
①	②	③	④	⑤
排水量 400m <sup>3</sup> /日以上で告示別記 2(1)又は(2)によらない場合、その根 拠を記入すること。		⑥		

注) 流量計又は流速計(記録式)又は、積算体積法(記録式)を用いる場合は、下記の資料を添付すること。⑦

- 選定計測器の仕様
- その他参考となるべき資料

- ①流量計による計測場所の番号を記入します。  
任意の番号で、別図1及び別図2と整合させてください。
- ②排水量の計測方法を記入します。  
流量計等の計測器の場合：計器の名称、メーカー名、型式  
環境庁告示20号別記2(3)の場合：  
「容器(水槽)による計測(JIS K0094 8.2)」等
- ③計測頻度を記入します。  
流量計等の計測器の場合：「連続」  
環境庁告示20号別記2(3)の場合：  
「5回/日(8、10、12、14、16時)」
- ④流量計等の計測器を設置する工事着手予定年月日等を記入します。
- ⑤流量算出の換算式がある場合には、換算式を記入します。  
また、記録計の有無についても記入します。
- ⑥排水量の量が400m<sup>3</sup>/日以上の場合、原則流量計等の計測器による  
計測になりますが、困難な場合はその根拠を記入します。  
詳細な根拠は、県告示を参照してください。

COD：環境庁告示20号化学的酸素要求量に係る汚濁負荷量の測定方法による神奈川県告示第163号環境庁告示第20号の知事が定める測定方法  
 T-N：環境庁告示77号窒素含有量に係る汚濁負荷量の測定方法による神奈川県告示第484号環境庁告示第77号の知事が定める測定方法  
 T-P：環境庁告示78号窒素含有量に係る汚濁負荷量の測定方法による神奈川県告示第485号環境庁告示第78号の知事が定める測定方法

- ⑦流量計等の計測器を用いる場合、次の資料を添付してください。  
添付する資料にを入れます。
  - ・流量計等の計測器の仕様書
  - ・その他資料(機器選定の根拠や換算式の根拠等)

5 特定排出水の一当たりの汚濁負荷量の算定方法

項目	計測場所	算定式	算定方法	特定排出水の濃度 (mg/l)	特定排出水の量 (m <sup>3</sup> /日)	特定排出水の負荷量 (kg/日)	負荷量の捕捉率 (%)
化学的酸素要求量	A1	C1×Q1	1. 時間平均水質×時間積算水量	10	2,500	25	76.9
	A2	C2×Q2	2. 瞬時計測の水質×時間積算水量	15	500	7.5	23.1
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
合計					3,000	32.5	100
窒素含有量	A1	N1×Q1	2. 瞬時計測の水質×時間積算水量	15	2,500	37.5	78.9
	A2	N2×Q2	2. 瞬時計測の水質×時間積算水量	20	500	10	21.1
	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
合計					3,000	47.5	100
りん含有量	A1	P1×Q1	2. 瞬時計測の水質×時間積算水量	0.5	2,500	1.25	71.4
	A2	P2×Q2	2. 瞬時計測の水質×時間積算水量	1	500	0.5	28.6
	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
合計					3,000	1.75	100

注) 算定の方法を下の表から選択し、上記の表の「算定の方法」の欄に番号と具体的な算定方法を記入してください。

算定の方法	1. 時間平均水質×時間積算水量 2. 瞬時計測の水質×時間積算水量 3. 瞬時計測の水質×瞬時計測の水量 4. その他(具体的に記入)	⑳
-------	---	---

①⑧⑮計測場所を記入します。別図1、2と整合させてください。

②⑨⑯算定式を3、4ページの計測場所番号を用いて記入します。

③⑩⑰算定方法を②から選択して記入します。  
 指定計測法による場合などは「4.その他」となり、次のような具体的な算定方法を記入します。  
 「1日3回の分析結果の平均値 × 日排水量」等

④⑪⑱各計測場所ごとの特定排出水の各項目(COD・T-N・T-P)の濃度を記入します。  
 ※直近に届け出た水質汚濁防止法第5条第1項又は第7条の別紙5「排出水の排水系統別の汚染状態及び量」の汚染状態(濃度)を参考にしてください。

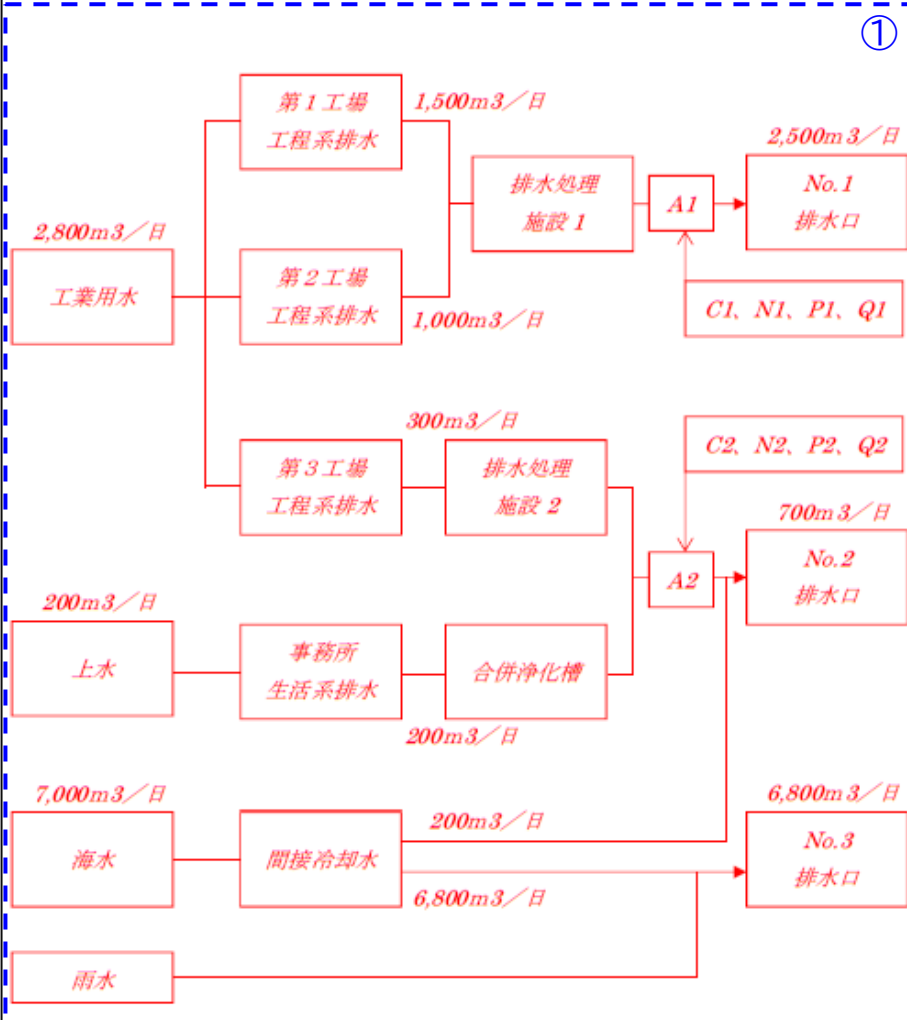
⑤⑫⑲各計測場所ごとの特定排出水の量を記入します。合計は2ページの特定排出水量に一致します。  
 ※直近に届け出た水質汚濁防止法第5条第1項又は第7条の別紙5「排出水の排水系統別の汚染状態及び量」の特定排出水の量を参考にしてください。

⑥⑬⑳負荷量を次の式により算出し、記入します。  
 算定式：濃度(mg/L)×排水量(m<sup>3</sup>/日)÷1,000  
 例：10 × 2,500 ÷ 1,000 = 25 (kg/日)

⑦⑭㉑負荷量の捕捉率を算出し、記入します。  
 原則、捕捉率の合計が100%になります。  
 例：25 ÷ 32.5 × 100 = 76.9 (%)

別図 1

## 排水系統及び測定場所に関する概要図



計測場所凡例（下記の番号を用いて記入すること）

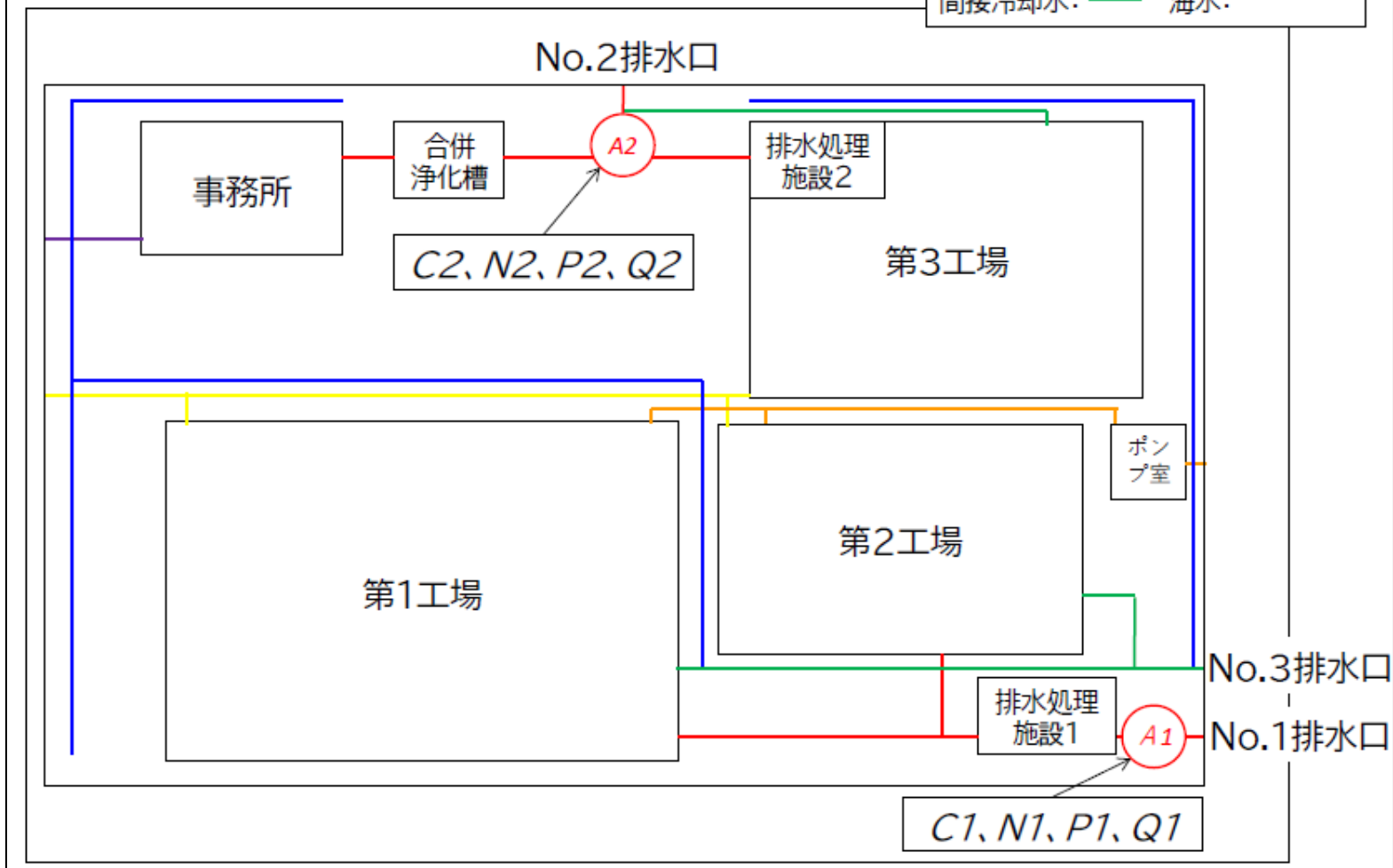
項目	項目詳細	記入用番号	備 考
水質	COD	C1, C2	
	T-N	N1, N2	②
	TP	P1, P2	
水量	排水	Q1, Q2	
	用水		用水量の計測方法による場合のみ記入

- ①排水系統及び測定場所の概略図を記入します。  
 3～5ページで記入した計測場所の番号を記入してください。  
 ※直近に届け出た水質汚濁防止法第5条第1項又は第7条の水バランスシートに測定場所を記入しても作成できます。  
 その際は、「添付書類のとおり」を記入し、排水系統図を添付してください。
- ②各項目ごとに3、4ページで記入した計測場所の番号を記入します。

## 別図2 平面図(排水系統図)

凡例; 雨水:	— (Blue)	上水:	— (Purple)
汚水:	— (Red)	工業用水:	— (Yellow)
間接冷却水:	— (Green)	海水:	— (Orange)

①



①事業場の平面図に次の事項を記入します。

- ・ 用水及び排水の系統  
系統別に色分けしてください。
- ・ 特定排出水の採取場所（自動計測の場合、計測器の設置場所及び水量計測場所）  
3～5ページの計測場所の記号を図面に記入してください。

※直近に届け出た水質汚濁防止法第5条第1項又は第7条の排水系統図に測定場所を記入しても作成できます。